

日本共産党大垣市議会議員 はんざわ多美の市政報告

第72号 2022年9月号

9月議会 過度な質問時間・傍聴の制限は改善を！

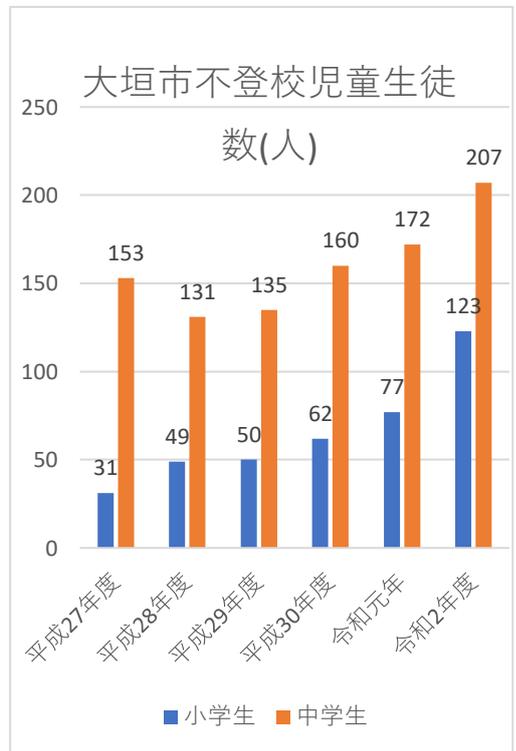
9月議会でも一般質問を行います。私たち日本共産党大垣市議団では、コロナを理由に一般質問の時間を過度に制限（答弁を含む）することに強く反対を続けているのですが、今回も変わらず、30分制限の一般質問です。

議会棟は天井も高く空調もよいため、コロナ感染拡大を防止するとはいえ、やり過ぎではないでしょうか。こうした制限は、「言論の府」である議会の本質的機能を自ら著しく狭めているものといえます。議会は市民の声を市政に上げたり行政事務をチェックしたりする大切な言論の場です。

9月12日（月）一般質問を行います！

今回の一般質問は下記の4点です。

- 1 ゴミ有料化住民説明会での不十分な説明点について
- 2 大垣市の不登校児童・生徒の増加とその対応について
- 3 就学援助制度の改善について
- 4 給食費無料化と給食内容の改善について



大垣市不登校児童生徒数（年間30日以上休み）は、増え続けています。中学生はさらなる増加、小学生は6年間で4倍の勢い。コロナ禍で一気に増えました。令和3年度の結果は、10月発表予定。さらに増えるのでは？

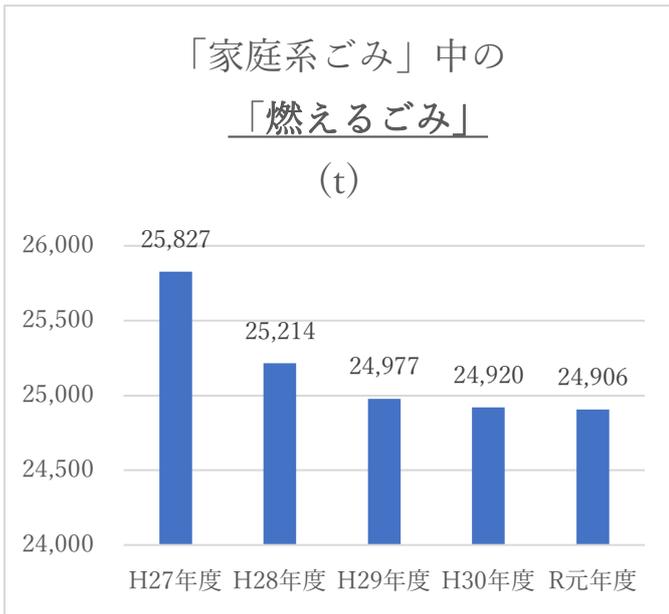


登校はしているものの、教室に入れない生徒が支援室に集まってクラス作れる規模になっている中学校の実態もあります。学校によって対応が異なっているようです。

愛情をかけて育てた子どもが学校に行けなくなったとき、子どもも親もたいへん苦しみます。学校や社会に受け入れの準備がなく、「本人と家庭にだけ問題がある」かのような言及がされれば（悪気はなくても）、ますます傷つき追い詰められることとなります。これだけ不登校や支援室登校の子どもが増える背景はどこにあるのかを市教育委員会もしっかり受け止め、すべての子どもたちが「教育を受ける権利」を享受することができるよう制度設計が必要です。

最近、カリキュラムを柔軟に設置できる**公立の不登校特例校**が、岐阜市（草潤中学校）にできました。学校に行けなかったほとんどの生徒が毎日通学するようになったと評判です。また、大垣市には**民間フリースクール**がありませんが、校長が認めれば学校出席とみなすことができます。子どもたちの学びの保障は、教育委員会がさまざまな選択肢を提示しての早急な対応が必要です。

「燃えるごみ」は減っているのに、有料化！？



ごみ有料化説明会では、「家庭系ごみ」が増えているという説明がなされていますが、実は、微増で「誤差」と評価されていたレベルです。

一方で、「家庭系ごみ」の9割を占める「燃えるごみ」は、毎年、左の表のとおり確実に減少しています。

住民説明会では、あたかも「燃えるごみ」が増えているから「ごみシールを廃止し、有料指定ごみ袋を導入」するかのよう思い込ませる説明がされています。「燃えるごみ」は、増えていませんので、「シール廃止」の根拠は大きく崩れているのです。近年も「燃えるごみ」が減り続けている事実は、ゴミ有料化を進めるうえでは都合が悪いといっているのでしょうか。

また、不燃ごみが増えているとしても、その要因は

何なのかを詳しく分析し、市民的な議論を行えるような資料を出したうえで、市民とともに作った計画でなければ、混乱を免れません。また、不燃ごみこそ丁寧な分別によって、さらなるリサイクルやリユースに回せるものも少なくないでしょう。

今回、ごみ袋を作ってしまったのであれば、来年度は無料ごみシールの代わりに「印刷したごみ袋」を市民の皆さんにお配りし、ごみ袋倉庫はリユースの拠点にするなど他の目的に使ってはどうか。



ごみ袋倉庫建設費
1782万円
ごみ袋印刷費
5115万円



クリーンセンター2階から撮影（9月9日）
ごみ袋倉庫は完成しています。（米野町）
場所は、リユース拠点に最適です！

段ボールコンポスト販売を扱う「大垣市環境市民会議」はクリーンセンター内に移動。狭いし入りづらいし。ゴミ減量を通じて環境問題を学習する窓口なのに、ここでのいいの？

改正条例中、「不燃ごみを有料」とした部分について中止することを求める請願が、「大垣市のごみ問題を考える会（代表 赤星守雄）」から9月議会に提出されています。

請願理由の主旨は、以下の通りです。

- ① 不燃ごみ袋が新たなごみになる。
不燃ごみ袋（標準）の予定印刷枚数 180万枚は！？ 40t
- ② 不燃ごみ回収は、西濃地域内の垂井町、神戸町、安八町、揖斐川町、池田町 では、無料のまま。
- ③ 危険物や資源物の取り出しが困難で、収集作業員の負担
- ④ 不燃物のごみ出しについては、大きな課題はなかった。

（西南濃粗大廃棄物処理センターでの火災現場跡 8月24日視察の様子）



大垣市の燃えないゴミを処理する西南濃粗大廃棄物処理センターでは、今年4月にリチウムイオン電池が原因で火災がおきたばかり。今でも毎日、発火が絶えない。電子タバコやイヤホンなど、小型家電から発火。